



あなたとペットの 災害対策 ハンドブック

日ごろの
準備と
心構え



動物の飼養についてのお問合わせ・ご相談は

- 香川県東讃保健福祉事務所
TEL 0879-29-8272
- 香川県小豆総合事務所
TEL 0879-62-1374
- 香川県中讃保健福祉事務所
TEL 0877-24-9964
- 香川県健康福祉部生活衛生課
TEL 087-832-3179
- 香川県西讃保健福祉事務所
TEL 0875-25-4383
- 高松市にお住まいの方は
高松市保健所生活衛生課まで
TEL 087-839-2865

- P01** 災害が起きたときはどうなるの？
▶ ペットとの同行避難
- P03** 何が必要なの？
▶ 所有者明示 ▶ ペットの健康管理 ▶ しつけ ▶ 飼育場所の安全確認
▶ ペットに必要な物資の備え
- P11** ペットは避難所でどうすればいいの？
- P13** 家族防災会議 ~ペットは家族の一員~
- P15** 地域(ご近所)のちから ~ペットは地域の一員~
- P17** ペットを含めた災害対策 ~人と動物が安心できる「今」をつくる~

災害が起きたときは どうなるの？

もしも災害が起これば…

災害は、いつ、どこで、どんなことが起こるかわかりません。



地震



津波



避難生活



台風



高潮

どのような災害においても、何よりもまず自分の身の安全を確保することが最優先です。
また、家屋が損壊したり、電気・ガス・水道などのライフラインが断絶し、その復旧に時間がかかる場合には、多くの人が避難生活を余儀なくされます。

さらに、ペットがいる場合には…



飼っている
ペットが
逃げてしまう



ペットを探して
危険な場所に立入る



逃げたペットが
人を傷つける



災害時にペットを
飼っているからこそ
起こりうる問題も
あります。

こんなこと
になったら
タイヘン…

このような問題が起こることを避けるには、ペットと一緒に避難（同行避難）することが有効です。

その時、ペットと一緒に避難できますか？



人間でも同じように、何の準備もしていない状態では、身の安全の確保やスムーズな避難はできません。同行避難を行なうためには、飼い主さん自身で、災害が起きる前に十分な準備をしておくことが前提です！

▶では、実際に必要なものはどういうものなのでしょう？

何が必要なの？

あなたの備えが終わったら、
次はペットのために備えよう！

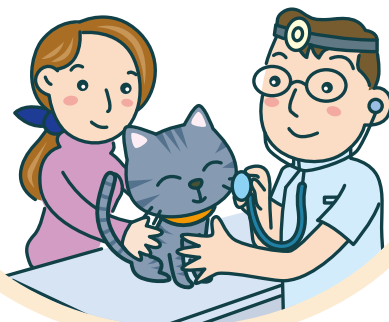
▶P5 所有者明示



▶P6 しつけ



▶P7 ペットの健康管理



▶P8 飼育場所の安全確認



▶P9・P10

ペットに必要な
物資の備え



▶どうしてこれらが必要なのでしょう？
▶具体的にどうすればいいのでしょうか？

所有者明示

もしものとき、ペットと再会するために

災害発生時には、大切なペットと離れ離れになってしまうかもしれません。

所有者明示をしておくことで、離れ離れになったペットと再会できる可能性がぐんと高くなります。

所有者明示の方法

迷子札など

犬や猫の首輪などに、飼い主の名前と連絡先を記入した名札をつけましょう。

また、鳥類には脚環など、ペットの種類に合った方法でつけましょう。



鑑札、狂犬病予防注射済票

犬には、鑑札、狂犬病予防注射済票を装着することが飼い主に義務付けられています。首輪などに装着しておけば、番号や記号から所有者を特定することができます。



マイクロチップ

小さなICチップを、動物の皮下に埋め込み、専用のリーダーをかざすと飼い主を特定できる数字や記号が読み取れます。迷子札や鑑札などと併用するとさらに効果的です。



しつけ

ペットが周りに迷惑をかけないように

ペットとの同行避難をスムーズに行ったり、避難場所でペットが周りの人の迷惑にならないようにするために、普段からしつけをしておきましょう。

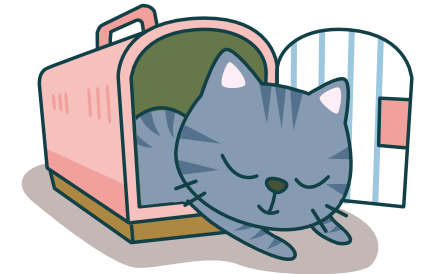
特に、ほかの人や動物と友好的に接することができるようにしておくことは、トラブルの防止とともに、ペット自身のストレスの軽減にもなります。

災害時に特に重要なしつけ

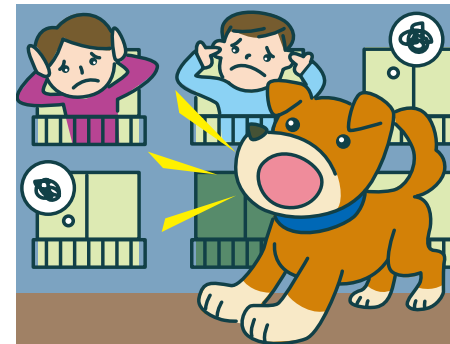
「待て」や「伏せ」などの基本的なことができる



ケージやキャリーバックに入ることに慣れさせる



無駄吠えをさせない



飼い主以外の人やほかの動物とも仲良くできる



ペットの健康管理

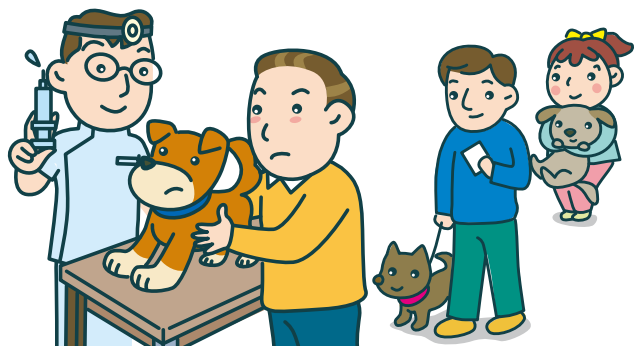
感染症の予防のために

災害が発生すると、環境の変化によるストレスや害虫の発生、他の動物と接触する機会の増加などにより、ペットは感染症にかかるリスクが高くなります。また、あなたのペットが人間や他のペットに病気をうつすこともあります。

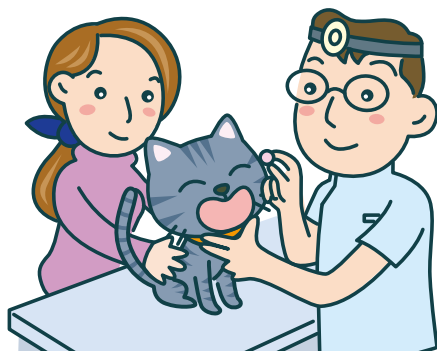
そうならないためにも普段から健康管理をし、感染症の予防をしましょう。
また、不必要な繁殖を防止するため、不妊・去勢手術を実施しておきましょう。

健康管理のポイント

毎年、狂犬病予防注射を受けさせる



感染症予防の混合ワクチンなどを接種しておく



ノミやダニ、寄生虫の予防・駆除をしておく



飼育場所の安全確認

あなたとペットのケガを防ぐために

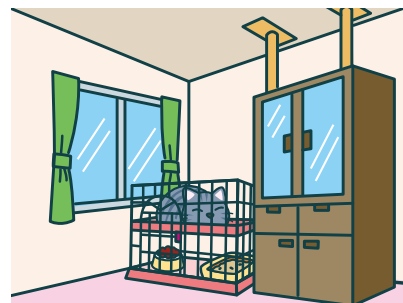
ペットを屋内で飼っている場合は、家具の転倒防止対策に加えて、ケージの転倒防止や落下防止の対策も必要です。また、窓ガラスや食器などの割れやすいものの近くを飼育場所としないようにしましょう。

ペットを屋外で飼っている場合は、ブロック塀の倒壊などからペットを守るためにも、ケージの強度や設置場所を確認しましょう。

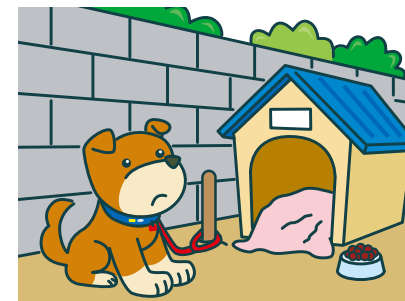
そうしておけば、ペットを連れ出す際にも、あなたとペットの危険を減らすことができます。

ペットの住まいの安全性確認ポイント

窓ガラス、食器など危ないものが、ペットの飼育場所の近くにないか



背の高い棚、ブロック塀などの近くに小屋などを置いていないか



水のたまりやすい低い場所などを飼育場所にしていないか



小屋やケージ、鎖やリードの強度は十分あるか



必要な物資の備え

ペットとの生活のために

ペットのために必要な物を備えておき、「ペット用非常持出し袋」などのわかりやすい名前をつけ、一つにまとめておきましょう。

普段から使うペット用品のそばに置いておけば、いざというときに持ち出すのに便利です。

ペットの健康に直接かかわるもの

餌・飲用水

餌と飲用水を、携帯できる容器とともに数日分用意しておきましょう。

飲用水は、ペットボトル等で保存するとよいでしょう。



ペットの常用薬、消毒薬

普段ペットに飲ませている薬（常用薬）がある場合は、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。ペット用の消毒薬や包帯なども準備しておきましょう。



ペットの健康手帳

普段の健康管理とあわせて、生年月日やワクチンの接種歴、病歴や健康状態などをメモしたペットの健康手帳を飼い主さんが作っておきましょう。そこにペットの写真を一緒に貼り付けておけば、ペットがはぐれたときに役立ちます。



ペットの住環境に必要なもの

ケージ、リードなど

ペットを連れて行くのに必要なケージやリード（引き綱）等を備えておきましょう。ケージは、移動のときにも使えるし、一時的なペットの寝場所にもなります。



トイレ用品など

周囲の衛生状態を悪化させないためには、トイレシートや猫用トイレの砂などが必要になります。また、汚物を処理するティッシュやゴミ袋等も必要です。



あると役立つもの

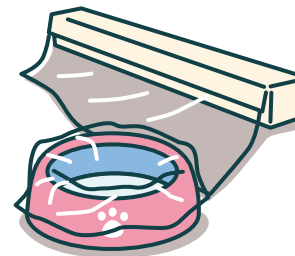
タオル

タオルは、寝床に敷いて体温の保持に使用したり、ペットの気を紛らわせるための遊び道具にしたり、ほかにもいろいろなところで役立つので、多めに用意しておきましょう。



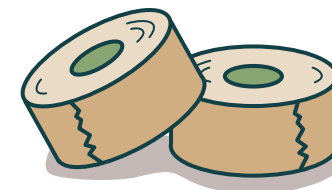
ラップフィルム

水道が止まって、食器などが洗えないときに便利です。



ガムテープ

ケージの補修など、多用途に使用することができます。



ここに示したのは、あくまで一般的な例です。ペットの種類などによっては他にも必要なものがあるかもしれません。日ごろから、ペットに必要なものについて用意しておきましょう。

ペットは避難所で どうすればいいの？

準備ができていれば大丈夫？
いえ、それだけでは終われません。

避難所には多くの人が集まってきます。

なかには動物が苦手な人やアレルギーを持っている人もいるかもしれません。
また、災害時には誰もがささいなことでもストレスを感じてしまいます。



せっかくペットと一緒に避難をしても、周りの人への配慮を忘れてしまえば、あなたのペットが迷惑な存在になってしまうかもしれません。

避難所では、人の生活区域とペットの生活区域を分けましょう。



このように、避難所では、環境の変化によってペットにも大きなストレスがかかっています。
ペットのストレスをやわらげる一番の理解者は飼い主です。

だからこそ、ペットの飼養管理は、 飼い主が責任をもって行いましょう。

えさを与えたり…



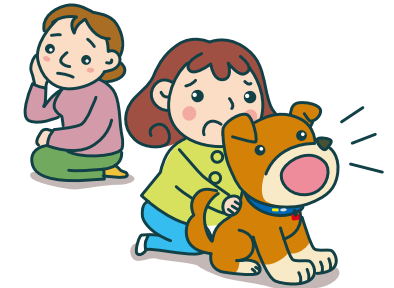
散歩をさせたり…



糞尿をきちんと処理したり…



鳴き声に配慮したり…



避難所には多くのペットも集まってくることから、飼い主同士が助け合って、衛生的な飼養管理を行いましょう。



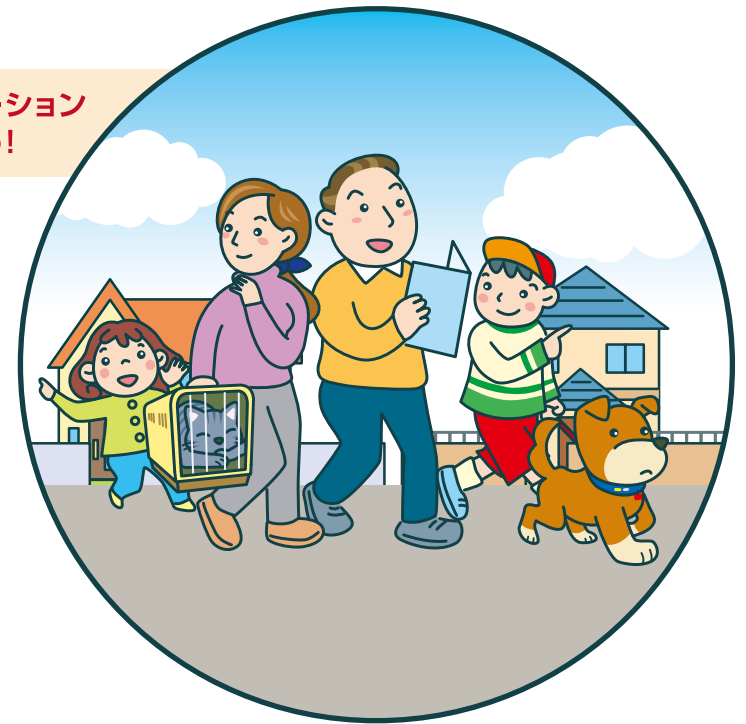
家族防災会議 ～ペットは家族の一員～

やってみよう!家族防災会議

これまで見てきたように、ペットとの同行避難には、十分な準備をしておくことや飼い主さんがマナーを守って飼養管理できることが前提ですが、いざ災害が起こったときには、誰もパニックになりがちです。

スムーズな避難のためには、普段から家族の中でペットとの同行避難について役割分担を考えるなど、具体的にシミュレーションをしておくといでしょう。

シミュレーション
してみよう!

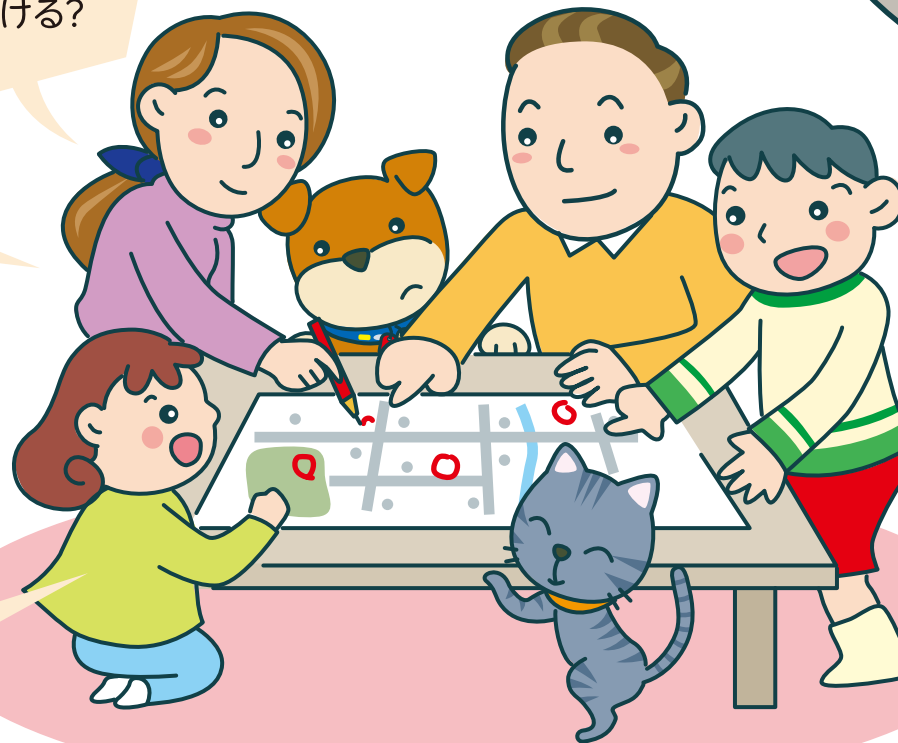


避難所までペットと
一緒に歩いて行ける?

ペット用の
非常持ち出し袋は
誰が運ぶ?

いざというときに
ペットを預けられるような人は
いないかな?

ペットの世話に
責任を持つ人は、
家族のだれ?



ペットと一緒に
連れて行ける
避難所は
近くにあるかな?

ペットはどうやって運ぶの?
ケージに入れて行く?
リードで連れて行く?

地域(ご近所)のちから ~ペットは地域の一員~

いざというときはご近所さん

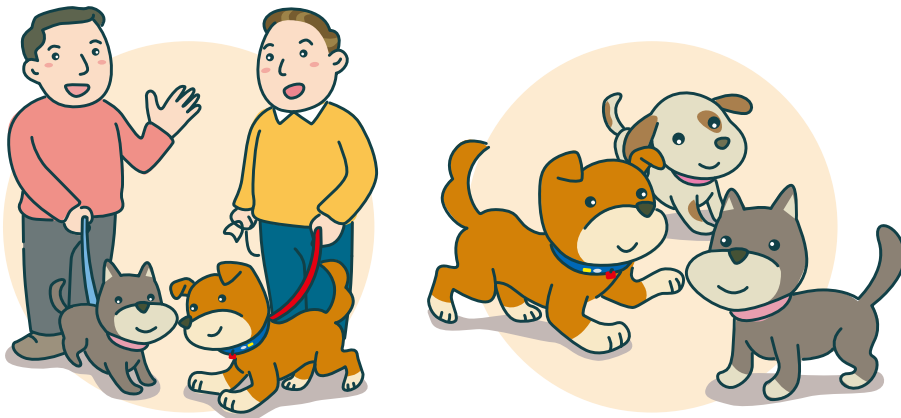
飼い主同士だからこそできること

もし、あなたが怪我などして、十分なペットの世話ができないとき、ほかの人が世話をしてくれれば助かります。もちろん、ほかの飼い主さんがペットの世話ができないときには、あなたがその世話をあげましょう。



そのためにも、普段から、飼い主同士でのコミュニケーションを図り、飼い主仲間のネットワークを作っておきましょう。

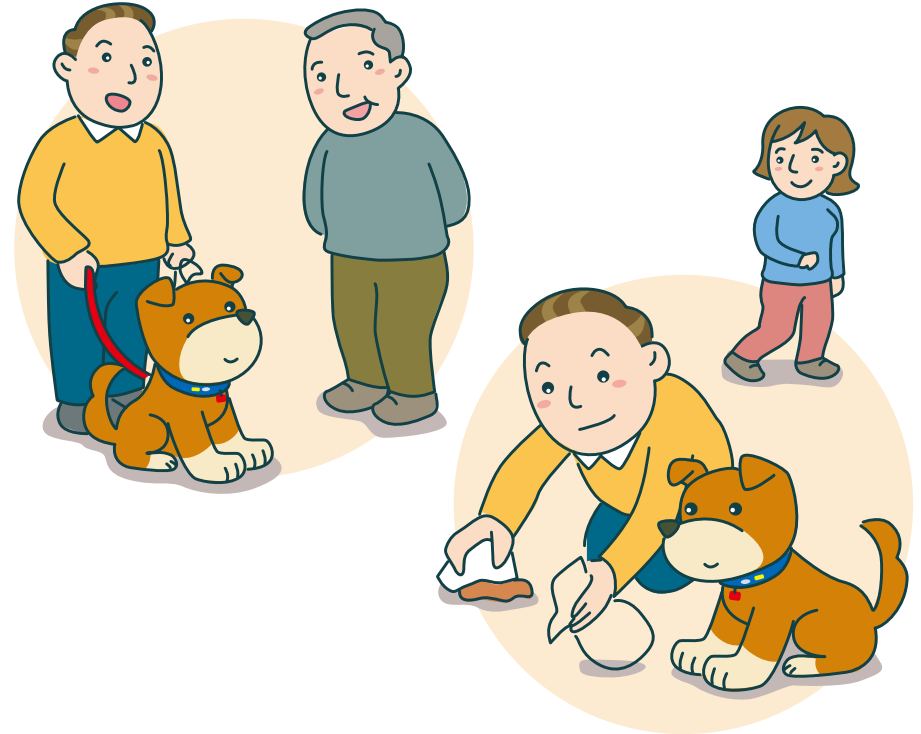
このことは、ペット同士を慣れさせることで、避難所でペットが集団で生活するときに、問題が発生しにくくなります。



地域の人とも仲良く

災害が起こった直後には、ご近所や地域の人々による助け合いが非常に重要です。あなたのペットも、ご近所の一員として迎えてもらえるよう、飼い主さんは、普段からご近所の人と、ペットを含めた円満な関係を築いておきましょう。

そのためには、例えばペットと一緒に地域行事に参加してご近所とコミュニケーションを行ってみたり、普段からマナーを守って飼っていることが重要です。



☑ ペットの預け先も探しておきましょう

台風や高潮など、その影響が予測できるときには、一時的にペットをどこかに預けたほうがよい場合もあります。

また、避難生活が長期化する場合は、一旦ペットだけをどこかに預け、生活が落ち着いてから改めて飼養することも検討すべきかもしれません。

親戚や友人、ペットホテルなど、信頼して預けられる人をあらかじめ探しておきましょう。普段からペットが慣れている相手であれば、ペットにとってもストレスが軽減されます。

ペットを含めた災害対策 ~人と動物が安心できる「今」をつくる~

ペットは「家族の一員」から
「地域の一員」へ

災害に対しては、地域社会全体としての対策が必要不可欠であり、ペットの災害対策においても「家族の一員」のみならず「地域の一員」としての対応が求められています。

ペットの災害対策は、自分のペットのことだけを考えるのではなく、地域全体の対策の中で考えなければならないということを、何よりもまず、飼い主さんが理解し、あなたのできる災害対策に取組みましょう。



飼育ルールの話し合い



飼い主グループによる飼育管理

楽しみ終わった今からはじめましょう!



ペットと一緒に防災訓練



避難所での生活

人と動物との調和のとれた 共生社会の実現に向けて